

確かな学び、豊かな学びプロジェクト

～一人一人の学力を保障し、豊かな人間を育成する～

岩手県教育委員会

平成 27 年 12 月 1 日

県教育委員会では、平成 26 年 11 月発行のリーフレット「確かな学び、豊かな学びプロジェクト」において、学力との相関関係が見られる授業の要素を、「確かな学びの創造（5項目）」「豊かな学びの創造（5項目）」として示しました。

今回、これらの要素を「いわての授業づくり3つの視点」に位置付け、授業づくりや授業の検証に役立てたいと考えました。この視点で、児童生徒の「確かな学び、豊かな学び」の実現に向けて全県で共通して取り組み、学校での組織的な対応を展開することで、児童生徒一人一人の学力を保障し、豊かな人間の育成を図りたいと考えています。

【学力向上の目的】

豊かな人間の育成

▶考えられなかったことを考えられるようにする

▶判断できなかったことを判断できるようにする

▶表現できなかったことを表現できるようにする

児童生徒一人一人の学力を保障する

▶教員相互の参観による日常的な授業研究

▶思考・判断・表現を支援する言語環境の整備

▶諸調査結果の活用による授業改善のサイクル化

▶教科や学年・校種を越えた横断的、縦断的な取組

県単での共通の取組

各校での共通の取組

「いわての授業づくり3つの視点」

により「確かな学び、豊かな学び」を実現する

視点1 見通し

視点2 学習活動

視点3 振り返り

◆3つの視点は、学習規律の徹底と温かい人間関係のある学級づくりの上に成り立つものです。

「いわての授業づくり3つの視点」

視点1 学習の見通し

■児童生徒の姿■

★学習課題（学習問題）を設定し、学習のゴールを見通す

- ・この時間で、何ができるようになっていけばよいか、何がわかればよいかをつかんでいる。
- ・課題が、自分にとってどのような意味(役に立つ、楽しいなど)をもつのかを理解している。

★学習課題（学習問題）の解決に向けて、学習内容を見通す

- ・既習内容を用いて解決する場合、どの既習内容を活用すればよいかを確認している。
- ・既習内容を発展させて解決する場合、どの既習内容と関連付ければよいかを予想している。
- ・新しい知識や技能を必要とする場合、先生や友達の説明などにより解決方法を理解している。

★学習課題（学習問題）の解決に向けて、学習プロセスを見通す

- ・学習プロセスを形態、活動内容、時間などで捉え、どのように学ぶのかを理解している。

【指導の留意点】

- ◎児童生徒一人一人が、自分の学習課題（学習問題）として捉えることができるように工夫する。
- ◎身に付けさせたい力、学習活動、時間内に解決できることを意識した学習課題（学習問題）とする。
- ◎指導者が、学習課題の解決に取り組んでみた上で、学習内容や学習プロセスなどを構想する。

視点2 学習課題(学習問題)を解決するための学習活動

■児童生徒の姿■

★学習課題（学習問題）を解決するために学習活動をする

- ・「学習の見通し」に沿って、主体的に学習している。
- ・思考方法や表現方法、語彙や用語などを理解し、その時点での自分の考えをまとめている。
- ・自分の考えをもって、ペアやグループ・全体での学習に臨み、自分の考えを発表したり友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりしている。
- ・わからないことは、自分で調べたり友達や先生に質問したりしている。

★一人一人が学習課題(学習問題)を解決する

- ・学習課題について、協働的な学習を通して深まったり広がったりした内容を、理由や根拠がわかるように記述したり話したりして、一人一人が自分の考えをまとめている。

【指導の留意点】

- ◎学習課題（学習問題）を解決するための手立てや視点、学習活動の方法について具体的に指導する。
- ◎学習課題（学習問題）を解決するために、主体的・協働的な学習展開となるように工夫する。
- ◎児童生徒一人一人が、身に付けるべき力を確実に身に付けることができるような学習活動にする。

視点3 学習の振り返り

■児童生徒の姿■

★学習内容を振り返ったり、学習の成果を実感したりする

- ・授業を通して、できるようになったこと、できなかったこと、わかったこと、わからなかったこと、興味をもったことなどについて、自分の言葉で説明している。
- ・評価問題を解いたり身に付いた力を確認したりして、学習の成果を実感している。

★学習プロセスを振り返ったり、協働的な学習活動の良さを実感したりする

- ・どのような学習プロセスによって自分がどのように変容したのかなどについて、自分の言葉で説明したり、「友達から学ぶことができた」など、学習活動の良さを実感したりしている。

【指導の留意点】

- ◎学習の見通しで見通した、ゴールや学習内容、学習プロセスに照らして、振り返られるように工夫する。
- ◎必要に応じ、児童生徒の自己評価・相互評価、評価問題、教師の評価を適切に位置付ける。
- ◎児童生徒一人一人が自分の学習について、達成感や有用感を自覚できるように工夫する。